

# 中山観光 季節のおはなし・旅便り



全国各地で梅雨明けの発表が待ち遠しい今日この頃・・・  
今年も暑い夏となりそうですが、いかがお過ごしちゃうか

各地で4年ぶりに行われる花火大会やお祭りなど  
今年は夏のイベントにも期待が高まっています。

いよいよ夏本番!

熱中症や夏風邪などお身体に気を付けて  
素敵な夏をお過ごしください



# 7月



7月といえば何を思い浮かべますか？

花や食べ物、イベントなど、思いつくものが色々ありますね

暑い季節だからこそ楽しめるイベント事から暑さで崩しがちな体調を整えるための行事まで 7月は盛りだくさんの季節です。

**7月7日といえば「七夕」の日**

天の川を挟んで織姫と彦星が1年で唯一会える日という伝説があり、この時期に合わせて、七夕のお祭りも全国各地で開催。

宮城県の「仙台七夕まつり」、神奈川県の「湘南ひらつか七夕まつり」

愛知県の「安城七夕まつり」は「日本三大七夕祭り」として知られています。

海開き・山開き（1日）

七夕（7日）

梅雨明け（上旬～中旬頃）

夏休み開始（20日前）

海の日（17日）

土用の丑の日（30日）



多くの地方で梅雨が明け猛暑期に入ります

そのため古くから日本ではこの時期に暑中見舞いを送り、健康を気遣います。

この時期には夏バテ対策で栄養価値の高いウナギを食べる習慣が…

今年の夏の土用の日は7月30日(日)

土用の丑の日にうなぎを食卓に出すようになったのには、さまざまないい伝えがあります。

なかでも有力なのは、江戸時代の万能学者である平賀源内が「丑の日は【う】からはじまるものを食べると縁起が良い」と推奨した説です。

うなぎの旬は秋と冬なので、夏のうなぎは人気がなく当時のうなぎ屋は売上不振が続いていました。

その後、「本日土用の丑の日」と張り紙を出したところ大盛況となったとされています。

また梅雨が終わり気温が一気に高くなる夏は特に体調を崩しやすいため、栄養価のあるうなぎが注目されます。

夏の夜空に願いを込めて

7月といえば、なんといっても七夕祭りでしょう

短冊に願いを込め、お星さまに祈る日本の伝統行事です。

これにちなんだ「文披月」が転じたことが、7月が文月といわれるようになった由来だといいます。

七夕月とも呼ばれる事からも七夕との関係の深さが伺われます。

## 東京・夏の風物詩 第76回 靖国神社 みたままつり【3万灯の提灯が彩る光の祭典】

2023年7月13日(木)から7月16日(日)までの4日間、東京・千代田区の靖国神社で「第76回 みたままつり」が行われます。

「みたままつり」は、国のために尊い命を捧げられた英靈を慰める行事として、靖国神社にて日本古来のお盆にあたる期間に行われている祭事。



靖国神社の外苑参道沿いに約1万個の大型提灯と、内苑に約2万個の

小型提灯が掲げられ、境内が献灯の黄金色の光に包まれます。

神門には宮城県護国神社から奉納された仙台七夕飾りが飾られます



桜をモチーフにしたさくら陶板は、  
令和元年、靖國神社御創立150年記念事業に  
際して、英靈にゆかりのある各都道府県の土を用いて  
現地の陶工達により制作・奉納されたものです。

英靈へまごころをこめ、伝統の技によりつくられた陶板一枚一枚が  
慰靈の心とその継承を表現します。

さくら陶板により、皆様が本殿に御参拝戴く際の“みちしるべ”となるよう“慰靈の庭”と名付けられたこの地に建立されました。



靖国神社敷地内のカフェダイニング「アティックルーム靖國

# 山開き

山開きは、3月～7月におこわれることがほとんどです。夏の登山や神社仏閣への参拝を目的とする夏山では、6月から7月が山開きとなるのが一般的です。山によってルートや気候が異なるため、山開きの時期は地域や山ごとに異なります。

山開きの日に、山の神様を祀り、安全祈願の儀式をするところは少なくありません。登山者だけでなく、参拝者や山で働く人などのために安全祈願が行われています。山は豊かで癒やされる存在である一方、遭難や事故も起こる場所です。昔に比べれば、登山道が整備され楽に山登りができるようになったとはいえ、一歩間違えば危険なことが起こり得る場所になります。

山開きは山に入れるようになっただけでなく、山に登れるようになったお祝いと「登山中に危険なことが起きないように祈る日」ということを、覚えておきましょう。

日本には山はいくつあるの？

答えは**1万6667山**

岳 vs 山 vs 峰 or 嶺

山は平地に比べ高く盛り上がっている地形を指す  
岳は山が連なりそびえるさまを表し、それは高くて険しい地形  
峰は尾根の突き出した部分を指します  
場合によっては山頂を意味することもある

登山愛好家にとって、「山開き」は待ち遠しい日。日本の国土は約7割が山や森林なので、山や登山に興味がなくても、ニュースなどで耳にすることが多い言葉ではないでしょうか。

山は厳しい自然がある一方で、多くの恵みをもたらしてくれる場所でもあります。そして日本では、古くから「信仰の対象」として崇められてきました。なかでも神仏をまつた靈山はみだりに入ってはいけない神聖な場所だったため、昔は修験者や山伏など限られた人しか立ち入ることを許されませんでした。その後、ほかの人も山に入って神仏を拝みたいと考えるようになり、一定期間のみ入山が許されるようになりました。



「なぜ、山に登るのか。そこに、山があるからだ」

イギリスの登山家、ジョージ・マロリーの有名な言葉です。山登りは決して楽ではありません。場合によっては危険さえ伴います。でもその先の頂上に達成感や充実感を味わえる、そして自然に囲まれ雄大な景色を眺めることで心はリラックスできるからまた登りたくなるんですよね。お休みの日には平地を離れ、緑の夏山の癒やしと涼しい風を肌で感じてみませんか？



# 海 VS 川

夏が近づくにつれ、海開きのニュースを心待ちにする人も増えてくるのではないか。  
「海開き」とは一般的に、その年の海水浴シーズンの初めに、砂浜をレジャーとして使用しても良いという許可が出る日を指します。また、その日に行われる行事のことを「海開き」と称することもあり、行事としてよく開催されているのは、海水浴シーズン中の安全を祈願して執り行われる神事です。  
本州での海開きは7月前後という夏直前の時期ですが、沖縄の海開きは例年3月下旬～4月という早い時期に行われています。また、日本で最も早いのは、小笠原諸島にある父島という離島で、元旦が海開きです。  
このように、海開きはさまざまな時期に行われています

海開きには今年もケガなく無事楽しく泳ぎたい！という意味が込められています…

「〇〇開き」という言葉の始まりは、山開きであると言われています。

海開きも、山開きにならって各地で行われるようになった行事

2023年7月17日は海の日です

海の日は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」として制定された国民の祝日です。

世界各国で海の日が国民の祝日になっているのは日本だけです。

海の日は7月の第3月曜日ですが当初7月20日で明治天皇が東北巡幸の際に軍艦ではなく汽船によって航海をし、

7月20日に横浜港へ帰着したことから制定されています。

海に感謝し、海を汚さないように心がけましょう。

今では「〇〇開き」で一番有名なのは「海開き」かもしれません。古い時代の海水浴は海で泳いで遊ぶのではなく海水に浸かるのは健康法のような扱いでそれほど一般的な事ではありませんでした。

昔の人達にとって身近な水辺と言えば海より川だったのです。

川は海よりも人の生活に密接に関わっていました。

河川を利用した運搬力はとても大きな物で、

陸地で同等の作業を行えるようになるには、

なんと列車の登場を待たなければならなかつたのだとか！

古代文明は基本的に大河の側で生まれていますが、

いかに川が人間に与えてくれる恩恵が大きかったか伺えますね。

夏本番を前に、海開きに向けた動きが本格化しています。

新型コロナの5類移行によって4年ぶりに海の家でもマスクを着ける必要がなくなりました。

山や海と同様に川でも「川開き」という言葉が使われていました。

この言葉が指すのは海水浴のための海開きと近く、かつて夏の暑い日の夜に「川涼み」と言って川辺の桟敷や川舟に乗って涼む行事があった時代にそれを行う時期が来た事を言ったそうです。これは「納涼始め」の儀式であり、同時に花火大会が行われる事も多いようです。

川開きが楽しみのための納涼と結びつけられる以前は、旧暦の6月に行われた水神祭がもとになったと考えられています。

川が暮らしに密接に関わっていたという事は水難事故など多かったので、安全祈願と水難事故で亡くなった方の鎮魂供養の意味合いが強かったそう…

江戸川区花火大会と並んで東京二大花火大会と言われる「隅田川花火大会」は、もともと江戸時代に行われていた両国の川開きの日に行って水神祭での花火が源流と言われています。

東京はかつて江戸と呼ばれた時代、水運で栄えた都市でした。

江戸湾は遠浅で砂がたまりやすいため、大きい港の設置が難しく、大型の船舶が港に接岸する事ができませんでした。

そのため佃島の沖に停泊した大型船に小舟で乗り付けて荷物を受け取り、

川を使って都市の奥まで直接荷物を運搬する事で流通の効率化を図り、都市として隆盛を誇ることになったのだとか。

# 2023 花火大会 IN SUMMER

長岡まつり大花火大会 / 8月2日・3日

## 4年ぶりに開催「隅田川花火大会」

東京都台東区と墨田区を流れる隅田川で、7月29日 土曜日に  
「隅田川花火大会」が4年ぶりに開催されます。

「隅田川花火大会」の始まりは、江戸時代にまでさかのぼります。

当時流行していた疫病の犠牲となった人々の慰靈と悪病退散を祈って、花火を打ち上げた  
「両国の川開き」が由来です。

明治維新や第二次世界大戦、戦後は交通事情の悪化や、隅田川の水質汚濁による臭害で  
一時中断したこともありましたが、1978年(昭和53年)に「隅田川花火大会」の  
名称で復活し、現在に至っています。

その花火を見下ろすかたちで観覧できる東京スカイツリーの展望台では観覧チケットを  
販売していますが

500人分の観覧チケットの倍率は、約100倍だったそうです。

## 毎年好評の屋形船からの花火鑑賞プラン！

4年ぶりに開催される花火大会に併せて  
「花火屋形船」を出航いたします。毎年大人気の「花火屋形船」は  
お一人様 ¥63,000  
今年の隅田川花火大会の花火屋形船は  
ご好評につき…すでに満員御礼となつたそうです。

日本三大花火大会の一つでもある長岡まつり大花火大会は、

『慰靈・復興・平和への祈り』を込めた花火大会になります。

また、開催場所は日本最長の川と言われている信濃川の河川敷で行われます。

祭り期間の2日間で約2万発の花火が打ち上げられますが、その一発一発には  
長岡発展に寄与した先人をはじめとする、長岡に備わる全ての方へ想いを  
のせて打ち上げられます。

## 長岡まつり大花火大会の最大の見どころ

### 『正三尺玉』と『復興祈願花火・フェニックス』

『正三尺玉』の花火玉の大きさはなんと、直径が90センチ、重さが300キロ  
上空600mまで打ち上げられて開花幅は約650mに広がります。  
大きさもありますが音も耳が張り裂けそうな爆音を体で感じることができ、  
その衝撃は迫力満点です。

復興祈願花火・フェニックスは復興を祈願して、  
「世界一の誇れるような壮大な花火を打ち上げたい」という市民から協賛を  
集め、打ち上げられたフェニックス。